



何という花でしょう (10月8日・梅田ユリ子家で撮影)



金光寺寺報
第196号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月法語カレンダーのことは

ねてもさめてもへだてなく南無阿弥陀仏をとらうべし

な も あ み だ ぶ つ

今月の法語は、親鸞聖人が末法という時代の捉え方を背景にお書きになられた『正像末和讃』第54番目、
弥陀大悲の誓願を
ふかく信ぜんひとはみな
ねてもさめてもへだてなく
南無阿弥陀仏をとらふべし

(注釈版聖典609ページ)

から引用されています。現代語版では、「阿弥陀仏の大なる慈悲の本願を深く信じる人は、みなともに寝ても覚めても変わりなく南無阿弥陀仏の名号を称えるがよい」とされています。親鸞聖人ご自身も、末法の時代だと肌身をもって実感しておられたことでしょう。

今月の法語で説かれるように、「弥陀の誓願」として経典に説かれた仏の願いが、人間にとっての真実の道を示すものである、ということに

目覚めさせていただいた人間は、寝ても覚めてもいつでも、そのことに気付かせてくださった阿弥陀さまの喚び声に耳を傾け続け、聞きつけなければならぬと、ご教示くださっていらっしゃるのでしょうか。ここに、親鸞聖人にとっての、弥陀の誓願に救われたことへの報恩行としての称名念仏の意味を、学ばせていただくことができるように感じます。

末法の世に生きる私たちは、唯一、寝ても覚めても称える名号を、「一人で生きているのではない。すべてのいのちのつながりの中で生きていることを忘れるな」という阿弥陀さまの喚び声と聞かせ続けていただくことで、真実の道を歩むことができます。そこに、親鸞聖人が浄土真宗をお説きくださった尊さをひしひしと感じます。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

10月
21日(土)午後
~ 22日(日)

12月
21日(木)終日

2018年
2月
7日(水)午後
3月
5日(月)終日



ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
10月8日現在 アクセス数 80,031人

仏教用語豆辞典

平常心

政治家が報道陣にかこまれて「いまの心境は」と聞かれた時、よく「平常心」と答えている場面をテレビで見たことがありません。特別に変わった心境じゃありませんよ、ふだんの心だよ、とでも言いたいのでしょうか。

「無門関」という禅の書に、唐代の僧、南泉普願と弟子の趙州從諗との問答があります。趙州が「如何なるか是れ道」と問うたのに対し、師の南泉が「平常心是れ道」と答えるので、平常心は、ピヨウジョウウシン(曹洞宗ではハイゼイシンだそうです)と読みます。中国唐代の禅僧である馬祖道一は、その語録で「何をか平常心と請(い)う、造作(は)から(い)無く、是非無く、取捨無く、断常無く、凡無く聖無し」とい、(只(た)だ)如今の行住坐

臥、応機接物、尽(ことごと)く是れ道なり」といいます。道とは悟りの道、仏道のことですから、日常ありのままの心がそのまま仏道である、という意味になります。内外に難問が山積している現在の政治情勢ですが、真の平常心でお願いします。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇 PART 1 から)

住職ひとりごと

先月、延岡市の野口記念館で「夏井いつき句会ライブ」と題してイベントが行われましたので参加しました。TBSテレビ「プレバト」という番組で人気を博している辛口の俳句作家なので、ご存知の方も多いかと思えます。テレビでは着物姿で登場されますので、当然、着物姿で参らうと思っていたら、洋服でした。本人曰く「私は着物は買えない、着れない、たためないので、一着も持っていない」とのこと。ライブ開催の意図は俳句愛好者を増やすため、全国を回り句会ライブを開催してることでした。俳句の作り方についてレクチャーがあり、実際に俳句を参加者に作らせ、作品を見て最終的に優秀作品七点を選ばうという流れでライブは進められました。当日の来場者は六百名。すべての方(私も含む)が作句しました。残念ながら私の句はその他大勢でした。最後に優秀作品七点の発表があり、その中に丁子集落、梶原敏子さんの作品「いちじくの割れてた。OK 信じなさい」がありました。(住職 松井卓郎)

家庭報恩講の縁

十月に入りいきなり最低気温が六・五を記録し、このまま寒くなるのかなと思っていたら、翌二日から一転気温が上ががり七日は夏を思わせるような気候でした。

今月から衣を夏用から冬用に変えました。例年、一日には変えるのですが、今年は夕イミングが悪く、衣替えは五日になりました。でも、二日から気温が上がりましたので、二日と四日の秋参りと三日と四日の葬儀は夏物の衣で助かりました。

十二月十五日、十六日の当山報恩講前に秋参り(家庭報恩講・地区恩講の無い所を一軒ずつお参りします)と恩講(地区報恩講)のご縁を今年もつとめます。すでに協和・長崎、小切畑、祇園町、芋の八重、矢惣園上地区の秋参りは終わりました。

一軒ずつお参りが終わると来年の法語カレンダー、報恩講の施本、そして今年初めて本山作成の「報恩講をご縁に4」というリーフレットをお配りしています。是非、施本とリーフレットはご一読ください。法語カレンダーは目につく所に掛けていただき月ごとの法味あふれる法語をお味わいいただければ幸いです。



ところで、七日、「ご縁をいただいた初・七日忌速夜法要である方から

「先日貰ったリーフレットを読んで秋参り(家庭報恩講)の意味がよく分かったばい」

とお声をかけていただきました。早速読んでいただきうれしくなりました。おそらく皆さまにもお読みいただけると思いますが、内容を少し紹介したいと思います。

年に一度の家庭訪問

山陰教区のある組では、重点プロジェクトの実践目標に「家庭報恩講の実施率を上げる」と掲げておられます。

その推進のための研修会のことです。昨今は、「メリツトのないものには関わりたくない」のが一般的な風潮ですから、魅力を感じなければ受け入れてくれないでしょう。そこで、「家庭報恩講の魅力」を、みんなで話し合ってもらいました。

ある方から、「ほんごさん(「報恩講さん」)は、年に一度の家庭訪問だと思います」との意見がありました。

年忌法要は頻繁にはありませんし、さらに月忌参りの習慣がなければ、何年もお寺との接点がない、という家庭もありうるでしょう。

そんな時に、お寺とご門徒とのつながりを、しっかりと継続しておくには、「年に一度の家庭訪問」が必要だと考え、てくださったのだと思います。

「家庭報恩講」は、家族全員でつとめていただく、とても大切な仏縁です。

この文章をお読みになり、秋参りの意義について納得されたようです。先月号、今月号で秋参りや恩講の日程をお知らせしました。どうぞ、一年に一度のご縁です。お仏壇をお掃除し、莊厳をきちんと行い、一緒に家庭報恩講のご縁をおつとめください。

法語の世界

〈原文〉

蓮如上人御病中の時仰せられ候ふ。御自身なにごとも思し召しのことさることなしと。ただ御兄弟のつち、その外たれにも信のなきをかなしく思し召し候ふ。世間にはよみぢのさはりといふことあり。われにおいては往生すともそれなし。ただ信のなきこと、これを歎かしく思し召し候ふと仰せられ候ふと。

(蓮如上人御一代記聞書 二百十一)

〈現代語訳〉

「ご病床にあつた蓮如上人が、「わたしは、もはや何も思い残すことはない。ただ、子供たちの中にも、その他の人々の中にも、信心のないものがあることを悲しく思う。世間では、思い残すことがあると死出の旅路のさまたげになるなどというが、わたしには今すぐ往生してもさまたげとなるような思いはない。ただ信心のないものがあることだけを嘆かわしく思うのである」と仰せになりました。

2017(平成29)年 恩講・秋参り日程(予定)のお知らせ

本年の恩講・秋参りの日程についてお知らせします。恩講の期日が未定の地区(倉本、古賀西)は早目に日程の相談をお願いします。秋参りは過去の状況を参考に大まかな予定をたてました。あくまでも予定です。葬儀、仏事や恩講が入りますと日程を変更します。遠方(熊本市、益城町、御船町、宇城市、高千穂町、延岡市、日向市、宮崎市)と中入・大平、渡瀬、山都町の秋参りは八ガキでお参りの日を連絡します。お茶の接待はご遠慮申し上げます。

恩講		秋参り	
11月	1日	11月	12日
	9日		20日
	11日		
	12日		
	17日		
	18日		
	19日		
	20日		
	22日		
	23日		
	24日		
12月	4日		